

日 時：令和7年10月6日(月)

午後2時から午後2時40分まで

場 所：日立市役所議会委員会室3

(市役所庁舎7階)

出席委員：10名

1 開 会

2 挨拶（公営企業管理者）

3 議 事

(1) 日立市上下水道事業経営戦略改定（水道料金体系の見直し）について

事務局から資料に基づき説明、主な意見や質疑等は次のとおり

〔委 員〕 値上げの必要性自体は概ね共有されていると認識しているが、市民の方達にそれをどう納得させるのかというのが、大きな課題として残っていると感じている。前回、委員長からも、価格改定に関する説明の透明性や誠実さが、市民の方達の許容率を高めるという研究結果の話があったと思うが、料金改定そのものというよりも、今後かかる費用について、その積算が合理的なものに感じられるのかという点を踏まえると、市として今回の料金改定を説明していくプロセスをどのように考えるのか。今後どのように取り組んでいくのか検討する余地があるのだとすれば、進展あれば教えていただきたい。

〔事務局〕 市民の皆様への広報としては、料金改定が決まり次第、市報やホームページや、様々な媒体を活用して説明していきたいと考えている。現在行っている経営戦略の改定については、パブリックコメントを実施する予定であり、その中では今回の料金改定も含め、我々が今後行っていく事業をご覧いただきながら、料金改定の必要性を理解いただきたいと考えている。

特に、老朽化対策と災害対策に係る費用が今後多額となってくる。その費用に伴い減価償却も多く発生する。今説明しました、

様々な広報媒体やパブリックコメント等を通して市民の皆様にお知らせしていきたいと考えている。

[事務局] 参考となるが、市議会議員 24 名にも今回の料金改定については説明を行ってきている。その中で、前回お示した資料内の県内の水道料金順位表をお見せしたところ、現在、日立市は県内でも一番水道料金が安い(2,700 円)が、今回の料金改定後は 3,200 円程度になるということで、県平均などと比較してもまだ安い料金で水を提供できるため、料金改定についてある程度の理解はいただいていると認識している。きちんとした論理構成で訴える方法も 1 つの手法であるが、まだ県内平均より安めの料金水準であるという説明からのアプローチも理解いただける 1 つの手法であると考えている。

[委員] 先日、市民に企業局だよりが配られたが、その中には、現在の水道事業の状況が記載されており、このまま料金収入が減少すると、更新工事などができなくなるというようなことは記載されている。一般市民の方は、水道料金がそろそろ値上げになるかなという予想はしていると思う。

[委員] 今回の改定を行うことで令和 12 年度までは黒字を確保できることは理解した。前回も同様の質問をしたが、令和 13 年度には再度赤字となる見込みということで、5 年後も同じような議論をし、議会や市民の方々の理解を得るという作業を行うという理解でよいか。

[事務局] 投資財政計画上では、令和 13 年度に再び赤字に転じる見込みになっているため、その際には、改めて投資財政計画を作成する過程で収入支出を試算し、料金改定が必要な場合には、料金のあり方や改定率を検討していくという、今回と同じような手続きを進める必要があると考えている。

現在の投資財政計画では、令和 13 年度に再び赤字となる見込みであるが、可能な限り経費を削減できるよう、事業を進めていきたいと考えている。

[委員] ・令和 13 年度に再び料金改定を実施しても、その後も人口減少が続く、コストは上がり続けるということが懸念される中、市

民としては5年ごとに料金を改定していくのかという不安が出てくると思う。

今回は料金算定期間を5年間という前提で置いているが、やはりもう少し長い目線で、20年、25年、30年以降にどうなっていくのかという視点が必要である。料金値上げの説明と併せて、コスト削減の説明、企業努力でこれだけコストを削減していますよという説明も必要になってくると思う。

・水道については、市民の方達もセンシティブな状況であり、総論としてはやはり、老朽化をいつまでも放ってはおけない、対応してもらわないといけないという意識があり、水道料金の値上げはやむなしという理解だと思ふ。

一方で、自分の家はどの程度の値上げになるのかというのが市民の方達が気になる部分であると思ふ。問い合わせ対応なども丁寧にしていく必要も重要である。

・大規模事業所と小規模な商店や事業主に対する水道料金の考え方も検討が必要ではないか。現在は大規模も小規模も一律の基本料金、従量料金が設定されているが、この料金表をもっと細かくし、例えば、地域の商店や飲食店には続けてもらいたいということであればそこを少し手厚く保護できるような対策や、或いは、産業を維持するために大規模事業所や工場を呼びたいということであれば、そこに対する割引制度を設けるなど、将来の産業構造への配慮も踏まえた料金体系も、次のステージでは必要になってくる可能性がある。

[事務局] コスト削減等の経営努力を見せていく姿勢が大事だという意見は、その通りであると思ふ。老朽化対策や災害対策の必要性に加え、我々が行っている電力使用量の抑制などの経営努力、また、過去には企業債の利息を抑える取組み等も行っているため、それらも併せて説明し理解いただけるように取り組んでいきたい。

6ページのイメージ図では、今回の料金改定が各家庭や店舗、工場にどの程度影響するかを例示させてもらったが、各家庭で実際にいくら値上げとなるのか気になるというのは確かにあると思ふ。今後料金改定が決定された際には、口径別に1m³ごとの料金

が一目でわかる料金早見表を企業局だよりなどでお示しするなど、丁寧に対応したいと考えている。

個人事業主や大規模事業所の料金に対する考え方についてだが、現在採用している逓増型従量料金制だと、一般世帯の負担を抑制する代わりに、大規模事業所や工場に御負担をいただくこととなる。その部分の考え方については、市内の事業所や工場の使用水量の動向や企業情報などを注視しながら、将来の料金改定を行うに当たって、料金表のあり方を検討し見直しを進めていきたいと考えている。

[委 員] 6 ページのイメージ図は市民の目から見ても非常にわかりやすくなっておりありがたい。

5 年後の令和 13 年度に再度料金改定の必要性を検討する必要があるとのことだが、それまでの間、市ではどのような経営努力をし、コスト削減など実施したかというものを数字で示すことは可能なのか。可能であれば、図やグラフで市の経営努力の結果を示してもらえると市民の理解も得やすいと考える。

[事務局] 経営努力については、市民の皆様に対し御説明していかなければならないと認識している。数字で示せるものと、示せないものもあると思うが、可能な限りわかりやすく示すことができるよう資料の作成等は工夫していきたい。

[事務局] 企業局だよりでは、毎年、予算や決算について掲載しており、その年度にどのような事業を行っていくかはお示しさせていただいている。

また、現在改定作業を進めている上下水道事業経営戦略は、事業の進行管理の役割の一端を担うものであるとも認識しており、この上下水道事業経営審議会は、経営戦略に基づいてきちんと事業を行っているのか評価する機関でもあるため、今後の審議会においても、事業の進捗状況等の評価に対し様々な意見や指摘をいただければと考えている。いただいた意見や指摘を踏まえ、我々も事業の軌道修正等を検討し、企業局だよりで市民の皆様を発信していく、そういうサイクルを考えているので、今後もよろしくお願いしたい。

[委員] 今回の審議会の意見、指摘をまとめると、1点目は、料金改定は今回だけではなく5年後にも見込まれていることから、将来の社会構造も視野に入れたうえで、もっと長期的な視点をもって料金の考え方等を検討していく必要がある。その際には、併せて、市の経営努力の成果などを見える化し、市民の方々に理解してもらうことが重要であるということ。

2点目は、各家庭の目線に立った時に、今回の料金改定でどの程度料金が上がるのか等、分かりやすく伝えてもらいたいということ。このような意見、指摘だったと思う。

[委員] 5年後にも水道料金を上げる必要性があるということで、市民の立場からすると、将来を考えた際に、明るい見通しが全然つかないため、強く負担を感じてしまう部分があると感じる。

市民が、未来の安心のために何をどこまで負担すればいいのかというビジョンのようなものが1つあると、水道料金の値上げを前向きに受け入れることができるのではないかと。

例えば、思いつきの話となってしまうが、現在少子化が非常に進んでいるので、水道料金の設計の中に、子育て世代への配慮を組み込むといった。

そういったメッセージを市民の方々に送れると、少し明るい未来のビジョンに結びついていくのではないかなと思うので、検討する価値はあるように感じた。

[事務局] 料金改定は、利益を上げることが直接の目的ではなく、耐震化や災害対策をしっかりと行い、今後も市民の皆様が当たり前のように水道、下水道を使っただけのようにしていくことが目的であるため、その説明をしっかりと行い、理解を得られるようにしていきたい。

[委員] 料金改定の話ではないが、線状降水帯が発生した際に大雨が降ると、エアハンマー現象というものが起こり、マンホール蓋が何mも吹き飛んでいるニュースを目にすることがある。雨水が下水道管内に流れ込み、圧力の上昇により起こってしまう現象という

ことで仕方がないことだと考えているが、日立市でも起こる可能性はあるのか。

[事務局] 下水道において大雨が降った際にそのような現象が起こる可能性はあるが、日立市では古いマンホールを浮上防止型のマンホールへ順次交換する作業を進めている。まだ古いものは残っているが、計画的に毎年 100 枚、200 枚の単位で交換をしている。

[委 員] マンホールは 1 枚、どのくらいの重さなのか。

[事務局] 約 40kg 程度である。

[事務局] 浮上防止型のマンホールは、下水道管内の圧が上昇した際に蓋が少し浮上するが、鍵が付いていて浮上した隙間から空気が抜ける仕様になっているため、吹き飛ぶようなことはない。現在、そういったマンホール蓋に交換する作業を進めている。

[事務局] 日立市の下水道は、汚水と雨水を分けて流す分流式を採用している。川崎市や東京都が採用している汚水も雨水も一括で処理する合流式と比較すると、雨水は道路の側溝や河川で処理しているため、分流式は基本的に雨水が污水管に流入しない仕組みとなっている。線状降水帯が発生した際、エアハンマー現象が起こる可能性にも違いが出てくると考える。

以 上